

■ 提案作品(発表順)

① 近畿大学 チーム

担当教授： 益田 信也

参加者： 濱崎 楓花、三原 遼、
久継 大河、松原 美季、
立石 卓也、高谷 和軌、
川本 彩有里、田中 大貴、
稲津 晴太郎、高森 輝



テーマ： 歩くことを楽しむ

子供連れは、車での来訪も想定しているが、通りは歩道とする。花の通りを楽しんでいただく。また、ドラマシップ周辺を丘にして、周囲を高くし、景観を楽しんでいただく。その先には、カフェや噴水を整備し、バーベキューも出来るスペースを設置した。夜は通りをライトアップする。又、倉庫から、ドラマシップの壁面を利用して、プロジェクションマッピングを行う。このように昼夜問わず楽しんでいただくように整備する計画です。

馬場先生： 体験デザインとしては誠実な回答です。丘と植物で道を繋ぐというのはわかりやすい。既存施設も利用した各スポットのコンテンツは、門司港全体からみても使えるかもしれないアイデアだと思う。

近藤先生： 昨日の提案より良くなっていて努力を感じる。ひとつだけ言うと、自分達で区画を作ってしまった。例えば、敷地の外にはみだして道路とと周り繋がつていくと、もっと良かった。



■ 提案作品(発表順)

② 釜山大学 Bチーム

担当教授 : Yoo, Jaewoo

参加者 : Youn Han Min, Han Yu Jin
Jeong Yu Jin, Son Ja Young
Cho Han Seul



テーマ : 門司港再生 ~これからの都市を考えて~

船着き場から門司港レトロに至った歴史をふまえ未来の門司港を考えました。既存の都市再生の基本として現代都市建築を活かす方法と遠景近景を活かす方法をあわせて、人のイベントからにぎわいを増していくくみを考えました。空間の活用と3次元のデッキを作りました。高層建物を縦軸にとり、横軸に人の流れをとって、それらを交わせることを考えました。海辺の付近は船着き場の空間をけずり、人が海辺に近づく場所を設けました。海辺より後方の住民が海まで来よう、学校地区の地域にとどまらない地域の改善がアイデンティティによいのではないかと考えました。

近藤先生: 門司港の財産である海辺をストレートに取り上げている。

馬場先生: 人の出会い、偶発的な出来事に着目した観点からの設計だと思う。

尾道先生: 人の交わりの場を明確に、計画の曲線の先にあるものを景観を通してプレゼンすればもっと良かった。



■ 提案作品(発表順)

③ 釜慶大学 Aチーム

担当教授 : Roh, Ji-Hwa

参加者 : Ha, Yu-Jeong, Kim, Jeong-Eun
Park, Ji-Yeon, Kim, Do-Hui
Park, Do-Kyeong



テーマ : おはよう門司港 !

コンセプトは、「文化と観光と住民の3つが混ざり合い、ずっと住みたい街を創りたい」

道を通して海を楽しめる「場所」としての新しい道を計画しました。新しい道は、門司港の住民や観光客などその目的に合わせてバリエーションに富んだ空間になります。

馬場先生: おもしろい提案だと思います。既存の動線に新たな道を繋ぎ、動線の選択肢を増やしていると思います。

また、それぞれの結節点をデザインしている部分もいい。ただし、もう少し古いものに光をあてるといいと思います。

近藤先生: コンセプトに非常に共感します。ただし、提案されたものは門司港のスケールを考えると少し大きさに感じます。



■ 提案作品(発表順)

④ 日本文理大学

担当教授：菅 雅幸・近藤 正一

参加者：調 菜月, 川端 理沙

川端 大輝, 中西 涼太

有富 魁



テーマ：レトロ路地の再発見と魅力の助長

栄町は老朽化により、かつての地割を失われつつあり、まちのアイデンティティを失いつつある状態である。

再開発によって形成された門司港レトロ(海側)と、古き良き姿を残す栄町レトロ(商店街)をつなぐ架け橋を提案します。

古くから残る飲み屋街の路地の近くにある空地に円形イベントスペースと屋台スペースを設け、門司港レトロ側の高い建物を貫通させた立体路地を作り、高い建物には地割をあえて狭く、低い建物によってできた路地を回遊させた動線を考えました。

近藤先生：門司全体から町全体、人間のスケールという視点でモチーフの事を考えられる模型のサイズが良かった。

ただ、時間が無かったこともあり完成度がちょっと低いので、帰ってからこの続きを考えてみるのもいいと思います。

馬場先生：最後に出てきた大きな建物に穴を開ける、小さな建物はバスでつなぐ、これこそどうするのかを見たかった。

地割こそアイデンティティと言うのは面白かったが、どうしてこうなったかを調べ、バスとの連動を考えてほしい。



■ 提案作品(発表順)

⑤ 釜慶大学 Bチーム

担当教授 : Roh, Ji-Hwa

参加者 : Cha, Jun oh, Kim, Mi-Young
Park, Jung-Won,
Choi, Ho-Kyung
Jang, Seo-Yoon



テーマ : The Reconstitution Of An Arcade 「アーケードの再構成」

このエリアの問題点は、アーケードは1階だけを使って、2階や屋根は使われていないこと、商店街は寒くて暗いイメージがあること。用途機能を増やし、水平垂直移動で都市の機能をつなぎ合わせて、観光の視線を奥へと拡張する方法を取ります。芸術家の創作空間や展示施設、住宅や商業施設、ガラスの天井が水平方向垂直方向に自在につながり、2階や屋上空間に伸びる歩廊は、古いアーケード商店街を立体的重層的伸張的に再構築し、新たな観光拠点として再生させる計画です。

馬場先生 : エリアの小ささを活かした良案です。非常に豊かなシークエンスが展開して、生き物のような自己生成物に見えます。このエリアのソフトとハードの実態を踏まえた再構成のルールづくりを強化できれば、さらに良い案になると思います。

近藤先生 : よく現状の課題を考えて筋道を考えた良案です。アーケードを1階だけでなく、2階にも屋上にも行ってみようというシンプルな提案で、豊かな提案ができています。次は身体スケールの提案を足していくとより良くなると思います。



■ 提案作品(発表順)

⑥ 北九州市立大学

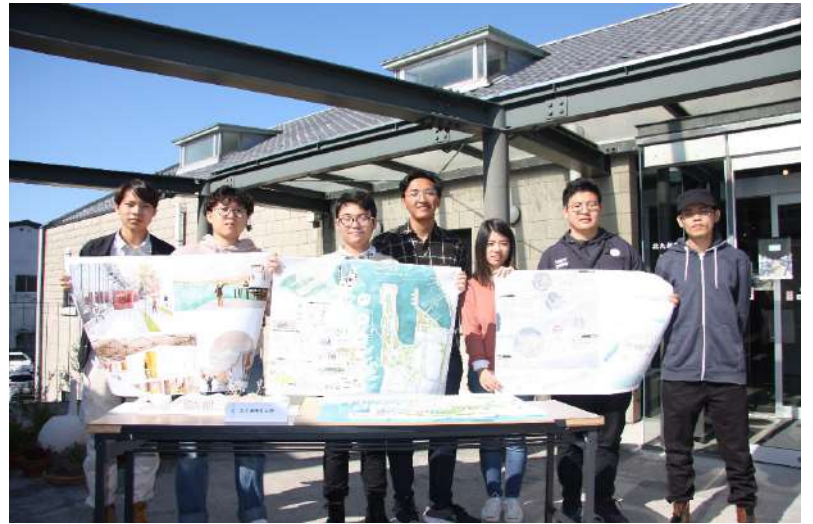
担当教授：福田 展淳

参加者：Dai Anbang

Doan Xuan Truong

Nguyen Hong Ngoc

Phan Anh Tung



テーマ：Re-Moji Regeneration of Mojiko Port

指定された門司港の4つのエリア全体の特性を読み解いたうえで、Cエリアについて提案している。

港エリアに、病院や、マーケット、ギャラリー、レストランなど新たに設けた公園を中心として観光客や地元の人などあらゆる世代や住民と観光客の交流の場を設けている。手法もリノベーションや、新設など多岐にわたっている。

近藤先生：門司港地区全体のことを考え、Cエリアについて提案している視点が良い。特徴的なのは、レトロや古建物だけでなく地域の人にとって必要な病院を設けていることや、レストランやマーケットなど観光的な要素と一体的に考えていると馬場先生：倉庫の活用や、コンテナの利用などたくさんのアイデアが盛り込まれているところが良い。また岸壁を砂浜として開放海を身近に感じる場所も提供しており、これらの手法はほかの場所でも応用できる部分が多い。

岩下先生：多岐にわたるアイデアを出しているところが非常に良かった。



■ 提案作品(発表順)

⑦ 九州産業大学

担当教授： 矢作 昌夫

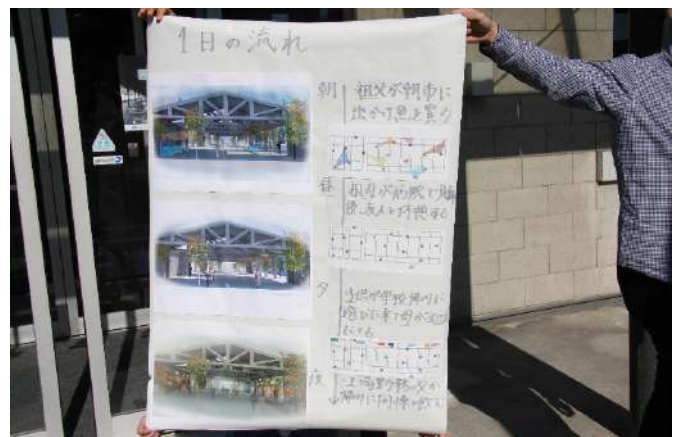
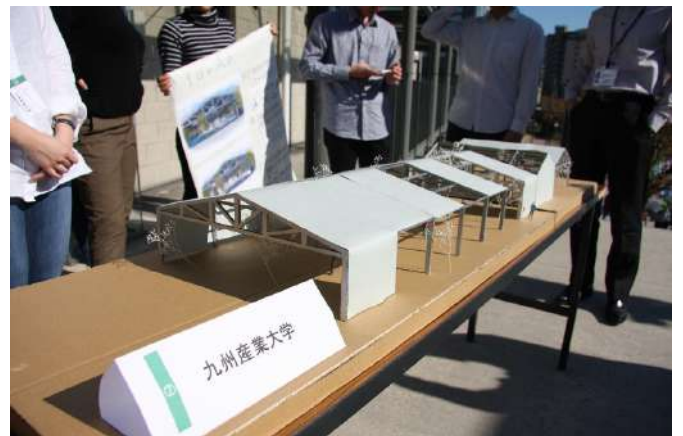
参加者： 田所 佑哉、山口 祐、
山本 彩菜、吉永 広野、
井本 大智、松田 湖都美、
濱津 のぞみ



テーマ： 門司港の器

嘗て活躍していた東港町の倉庫も、時代が移り変わり、今は色あせて見えます。この倉庫をコンバージョン、再び光を当てまちづくりに繋げようとする計画です。それは、今の周辺のアクティビティ(観光、漁業、港、病院、住人)を取り込みながら、24時間、用途を変えつつ運用されるもののようです。改修方法は、素形・骨組みは残し、表層を扱うことで多様な空間をつくること目指されており、まちを、その骨格は変えずに穏やかに変えたいといった企図が顕れています。

馬場先生：”器”というタイトルは、色々想像させるものがありいいし、倉庫を、観光や生活と共存させる為のコンバージョンもいいけれど、肝心な中身の描き方が不十分です。描ききれば外の表情も、より豊かになってくると思われれます。
近藤先生：中心を作ることで周辺をつなげてゆくといいアイデアは優れているのですが、その内容は断片的なアイデアしかなく、イメージを喚起するような具体的な提案がありません。それが残念です。



■ 提案作品(発表順)

⑧ 東亜大学チーム

担当教授 : Cha Youn Suk

参加者 : Shin Hyun Ung, Bae Hye Min,
Won Hyung Moon, Oh Hui Geun
Kim Tae Won, Yun Sung Hwan



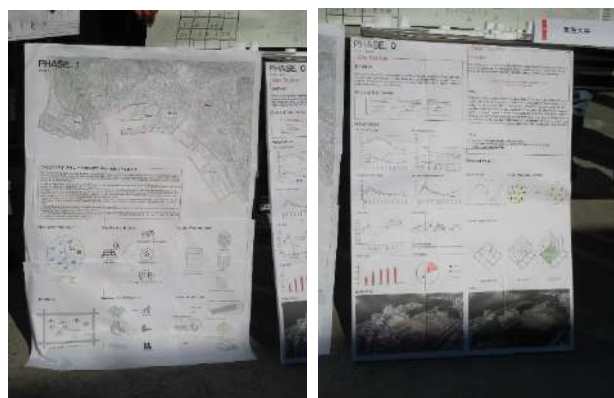
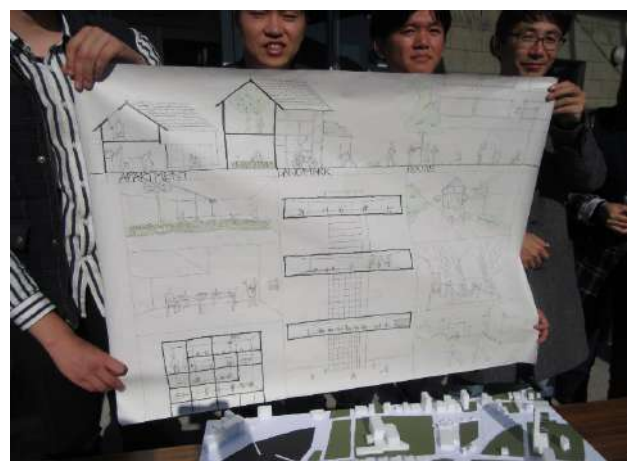
テーマ : 門司港リノベーション

門司港地区が抱える、人口減少 空き家対策 観光客減少に関して問題提起し新しい都市計画モデルを提示している。

手法として、歴史的建造物や病院などのインフラ施設は残し、空き家を取り壊すことで代謝し新たに下記に示す項目を埋め込む事で、サステナブルな都市を提案した。

- ①太陽光パネル屋根
- ②農園や農業施設(直販所等)
- ③壁面発電で景観デザインしたマンション
- ④ランドマークタワー レトロハイマートをエネルギー体験施設にリノベート

馬場先生: 現実に起こりうる都市計画の提案で素晴らしい。ただし、本案はヒューマンスケールからの提案であり、都市スケールの観点から自然エネルギーの提案が欲しかった。



■ 提案作品(発表順)

⑨ 九州工業大学(Dエリア:和布刈地区)

担当教授：佐久間 治

参加者：江上 綾、上谷田 和幸、
飯屋崎 泰裕、宮下 紋佳、
山田 真衣、朱 園



コンセプト：和布刈神社への参道を主体として、点在する埋もれかけたポテンシャルを再生し、人々に体感させることで門司港エリアでの新しい一面をここに生み出す。

この地区における大きな特徴である和布刈神社、そこへと向かう新たな歩行者の為の道として、「山の参道」「海の参道」を設けます。レトロエリアとは違う自然あふれる環境や、海峡の景色、関門橋など多くのポテンシャルが点在しているので、神社に向かいながらも、その多くを体感できるように、参道に対して脇道を繋ぎ合わせた提案です。

馬場先生：海を飛び越える軸線の発見、「山の参道」の切通し、「海の参道」の簡潔な造りは人工と自然の間のような感じを受けて非常に良いと思います。脇道が何をにつないで、先に何が待っているのか？という部分が少し弱いと思います。

近藤先生：この地区の一番良い場所、時間軸としても何百年単位で存在する神社に目を付け、参道にも着目したのは良い。「海の参道」の長さや脇道が、歩いて行く時にどんな感覚を感じるのか？もう少しスタディする余地があると思います。



■ 提案作品(発表順)

⑩ 九州職業能力開発大学校

担当教授：黒木 宏之

参加者：丸本 幸太郎 北尾 颯都
 平田 大輔 宮田 正明
 前田 怜音 玉 寄 稜河



テーマ：いき・かえる文字 ～み・なおす関門海峡

本州と九州をつなぐ玄関口であるエリアDの和布刈地区に対して提案します。人口減少が著しいこの地区にインバウンドや新たな建築物によって地域活性化させるのではなく、門司港の様々な文化遺産を生かして人々が過ごしたくなる町づくりを目指します。具体的には、下関と門司を繋ぐ「関門ロープウェイ」、関門海峡を体感できる「空中歩道橋」、歩行者と自転車を段差で分離した「遊歩道」、レトロ地区と住居地区を結ぶ「活気をつなぐ橋」、「空き家をアトリエとして活用」を提案します。

近藤先生：門司を俯瞰した大きな視点とロープウェイは良かったです。町を大きな方向に転換させる思い切ったアイデアに共感します。施工を学んでいる学生ならではの提案であればもっと良かったです。

馬場先生：エリア全体を視野にしたモビリティへの着眼点は良かった。動くこと自体を楽しむ開き直りがあっても良かった。

岩下先生：補助金目当てのプロジェクトのようで、後に何を残したのか、アート感は感じられなかった。

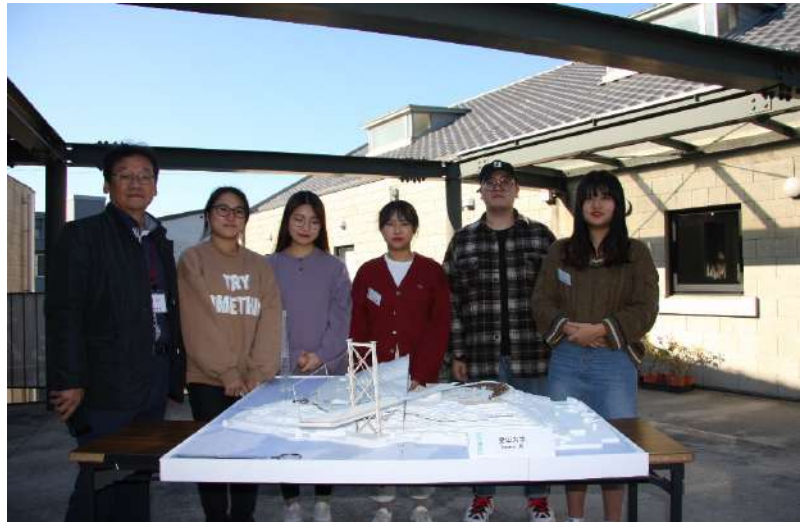


■ 提案作品(発表順)

⑪ 釜山大学 Aチーム

担当教授 : Yoo, Jaewoo

参加者 : Kim Dae Gyung, Kim Soo Yon
Yoon Jae Woong
Amanov Almazbek
Jin Hoe Yoon, Bae Da Hye



テーマ : 点・線・面とネットワーク ～人の流れがエリアを拓げる～

地域の可能性を考え、基点となる点と点を結んだ中に新たな点を作り出し、動線を結ぶことで線となし、線で結ばれたことにより、さらに面・領域となすことを考え計画しました。基点となる点は2点取りました。それぞれに既存のパーキングエリアと眺望のよい地点を設定しました。この基点を結ぶ中に既存の擁壁工作物のあるガケ下の活用されていない地点を新たな点としてつくり、基点の2点とを道を造ることで結びました。これらを門司港の歴史情報発信などに活用しながら点と点をつなぐことで人の動きが活性化し、ネットワークが生まれることを想定しました。

馬場先生: この設計は建築未満のファニチャー、モニュメントなどにも適用できうる柔軟性をもっている。

近藤先生: 小さなエリアがつながってネットワークになるという発想がおもしろい。

尾道先生: 建築的手法による空間の展開を加えるとよりよくなると思う。

